

『春高樓で花の宴』 **04.21(土)**

～花に囲まれてたのしい昼食会～

お花を部屋中に飾って、お酒をたのしみ、美味しいお昼を味わい、ちょっと「ため」になるお話を聞いたり、コーラスをたのしんだり、お茶とお菓子が談笑したりして、春の1日を、ゆったりと心ゆくまで味わいつくします。

- 日時：平成30年4月21日(土) 11:30～15:00(開場 11:00)
- 内容：お花見弁当、お菓子、紅茶、お話、コーラス
- お話：『パンが第二の主食になった昭和』／小泉和子 館長
- 定員：30名 □参加費：5,000円 ※要予約 臨時休館

夏の『雑もの茶会』 **06.23(土)**

『雑もの茶会』は、参加者の方々に器を持ち寄っていただいて開くお茶会です。日頃ご飯を食べている茶碗でも、陶芸教室で自作した井鉢でも、もちろん由緒ある大名物でもなんでもかまいません。冷たい網代の上には座って、御簾を通り抜けてくる涼風をうける心地よさは夏の宵ならでは。何流でもない、気の張らない、和やかなお茶会です。



- 日時：平成30年6月23日(土) 17:30～21:30(開場 17:00)
- 内容：お食事、お抹茶、お菓子、お話、器の紹介、音楽鑑賞など
- 定員：30名 □参加費：5,000円 ※要予約 臨時休館

『かまどの日／井戸の日』 **毎月第2(日)**

月に一度、台所のかまどに火を入れます。ぜんざい、ふかし芋など、その時々ちょっと美味しいものをご用意しております。夏場は暑いので『井戸の日』。水鉄砲やミニトマトすくいなど。

- 日時：毎月第2日曜日 10:30頃～15:30頃(飲食は有料)
- ※イベントなどで中止する場合があります。

『ごはん炊き体験』 **※随時受付、要事前予約**

薪割り、かまどでのご飯炊き、せいろで野菜を蒸したり、七輪で魚を焼いたり・・・自分たちの手でごはんを作ってみませんか？

- 体験料：高校生以上 2,300円 小・中学生 1,800円 (材料費込)
- 所要時間：約4時間(例 10:00～14:00)
- 受入人数：5～20名程度
- 体験内容：かまど体験(ごはん・みそ汁・焼魚など)・洗濯体験など
- ※随時受付、要事前予約。内容など相談に応じます。

『登録記念日』 **※無料公開 07.02(月)**

平成19年7月2日、「石見銀山遺跡とその文化的景観」は、ユネスコの世界文化遺産に登録されました。それ以来7月2日は観覧料を無料とし、「まき」を蒸して賑やかに祝います。

※「まき」はサルトリイバラで包んで蒸した餡子入りのお団子です。
(1個100円、10:30頃～なくなり次第終了)

『冬にまなぶ』 **12.15(土)**

～温かいおでんと熊谷家の歴史～

冬は籠ってお勉強です。静かな冬の日、集まって先生の話に耳を傾けます。講師は京都大学の岩城卓二教授。熊谷家文書より、最新の研究成果をお話しいただきます。お勉強の後はあつあつのおでんとおにぎりで温まります。

- 日時：平成30年12月15日(土) 11:00～14:00(開場 10:30)
- 内容：講演、茶話会(おでん・おむすび)
- 講師：岩城卓二氏(京都大学人文科学研究所教授)
- 定員：50名 □参加費：2,000円 ※要予約 臨時休館

熊谷家の「むかし家事教室」2018 前期

人は、昔からさまざまな道具を使ってくらししてきました。時代とともにいろいろな工夫がなされ、私たちの生活はどんどん便利に快適に、今では道具など使わなくてもお金でなんでも手に入るほどになりました。本当に豊かにならしたは？ 着ること、食べること、住まうこと。昔のくらしを知り、自分の手で生み出す面白さを、私たちが生きていくための知恵を学びます。

『野草茶』をつくろう！ **06.02(土) 13:00～16:00**

身近な野草を使ってお茶をつくりまします。

参加費：高校生以上 1,500円 / 小中学生 500円 定員：20名

『まき』をつくろう！ **07.08(日) 13:00～16:00**

かまどで火を焚き、蒸籠で『まき団子』を蒸します。

参加費：高校生以上 2,000円 / 小中学生 1,500円 定員：20名

『縫いもの』をしよう！ **10.19(金) 10:00～16:00**

参加費：1,500円 定員：20名

※後期は箒づくり、お味噌づくりを予定しています。

※今年度講座をすべて受講された方には【卒業証書】、12講座(2015年度講座からの合計)を受講されると【くらしの伝承士】に認定されます。(昭和のくらし博物館の本校講座「くらしの学校」も含みます)
昭和のくらし博物館：http://www.showanokurashi.com/

熊谷家住宅 第1回特別展

パンと昭和



とき：～2019年3月 / ところ：熊谷家住宅 主屋2階

昭和時代は日本人の生活が大きく変わった時代ですが、パンが主食にならぶものとなったこともその一つでしょう。

民族の主食が代わるということは、じつに大変なことです。

軍隊のパン、戦中の代用食としてのパン、給食のパン、島根のご当地パンなど、米からパンへの道筋を戦後の歴史の中で見てみようとしたのがこの「パンと昭和」展です。

